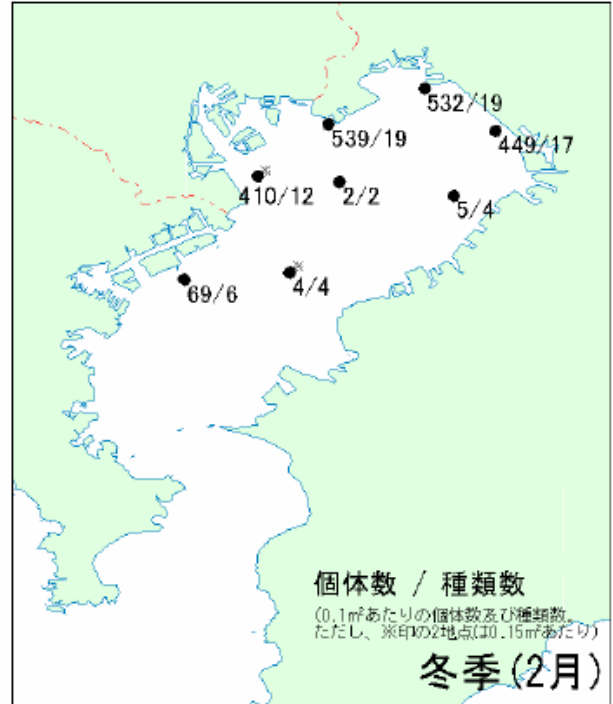
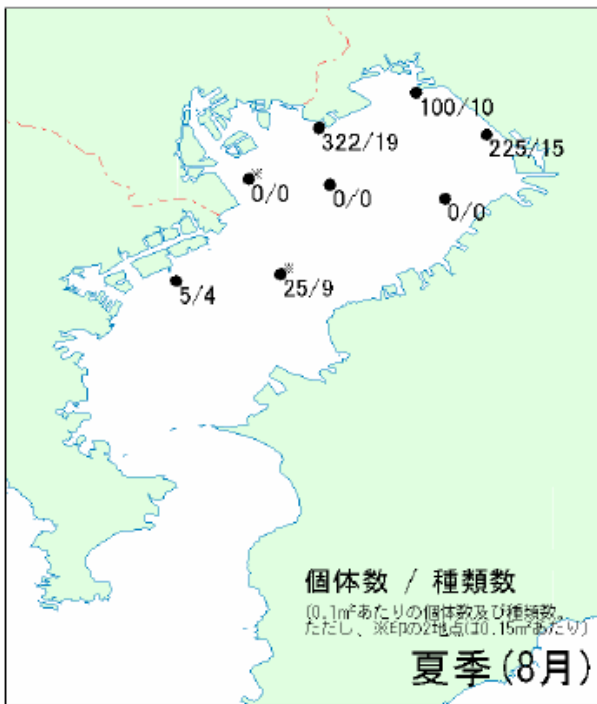


出典) 大阪府立水産試験場

備考) DOは底上1mの値。

薄いハッチは酸素飽和度40%以下、濃いハッチは10%以下を示す。

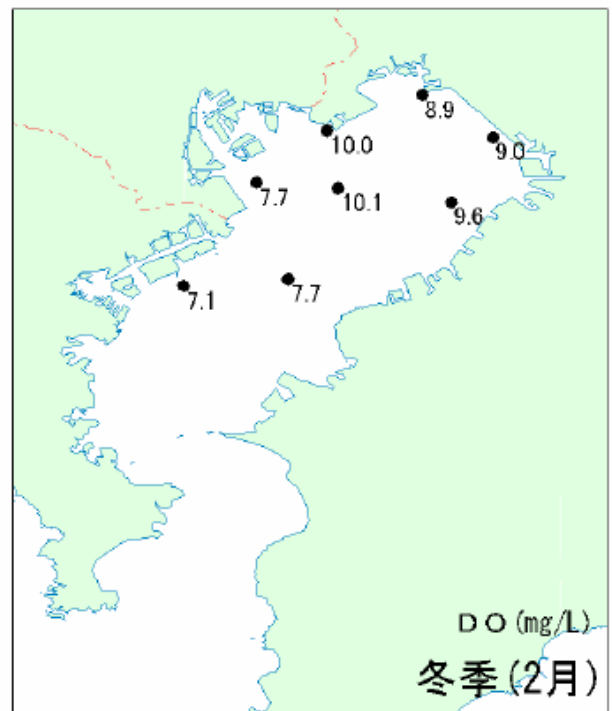
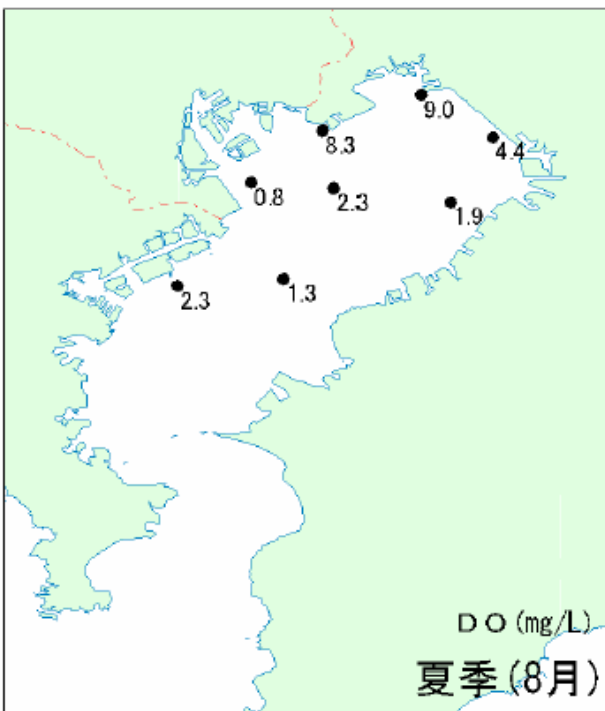
図 2 3 大阪湾における底層の酸素飽和度(%)の分布(平成14年)



出典) 広域総合水質調査(環境省)

備考) 底生生物の個体数及び種類数は、0.1m² 当たりの数。ただし、印の地点は 0.15m² 当たりの数。

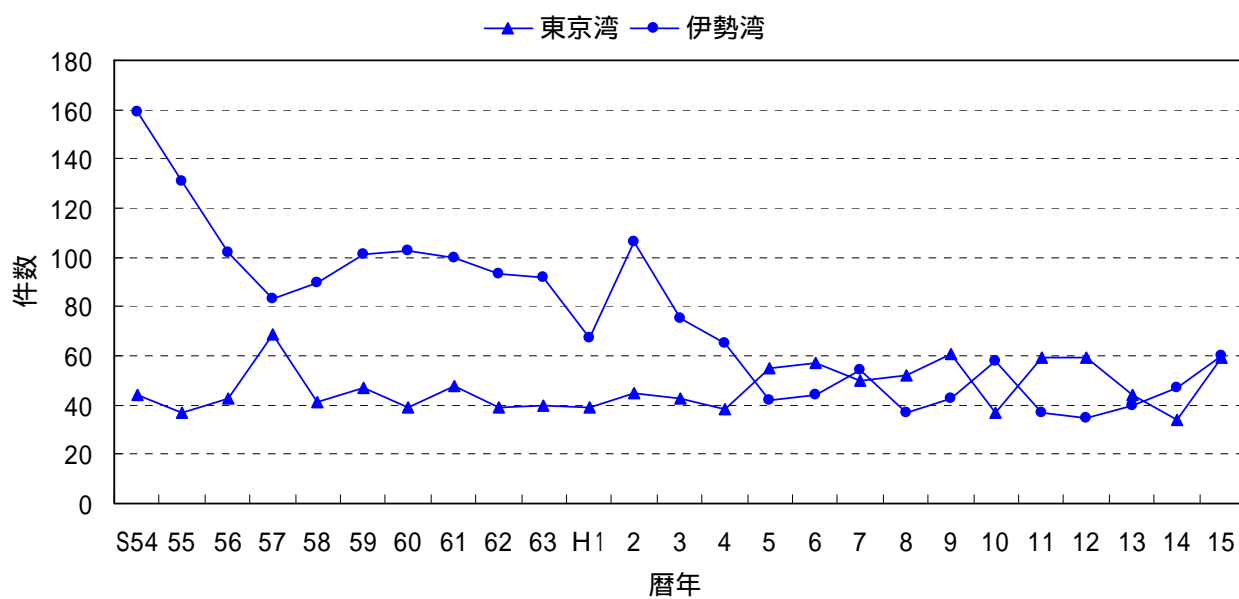
図 2 4 東京湾における底生生物の個体数及び種類数の分布 (平成 15 年度)



出典) 広域総合水質調査(環境省)

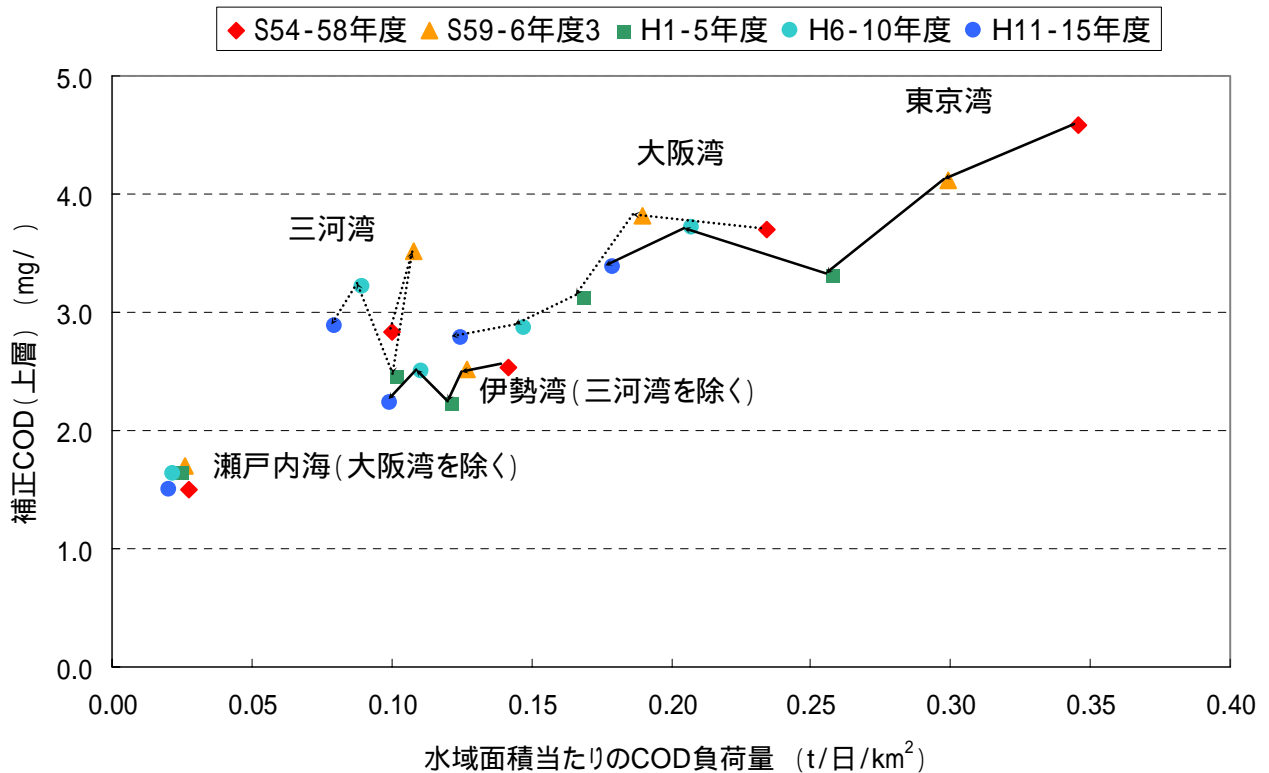
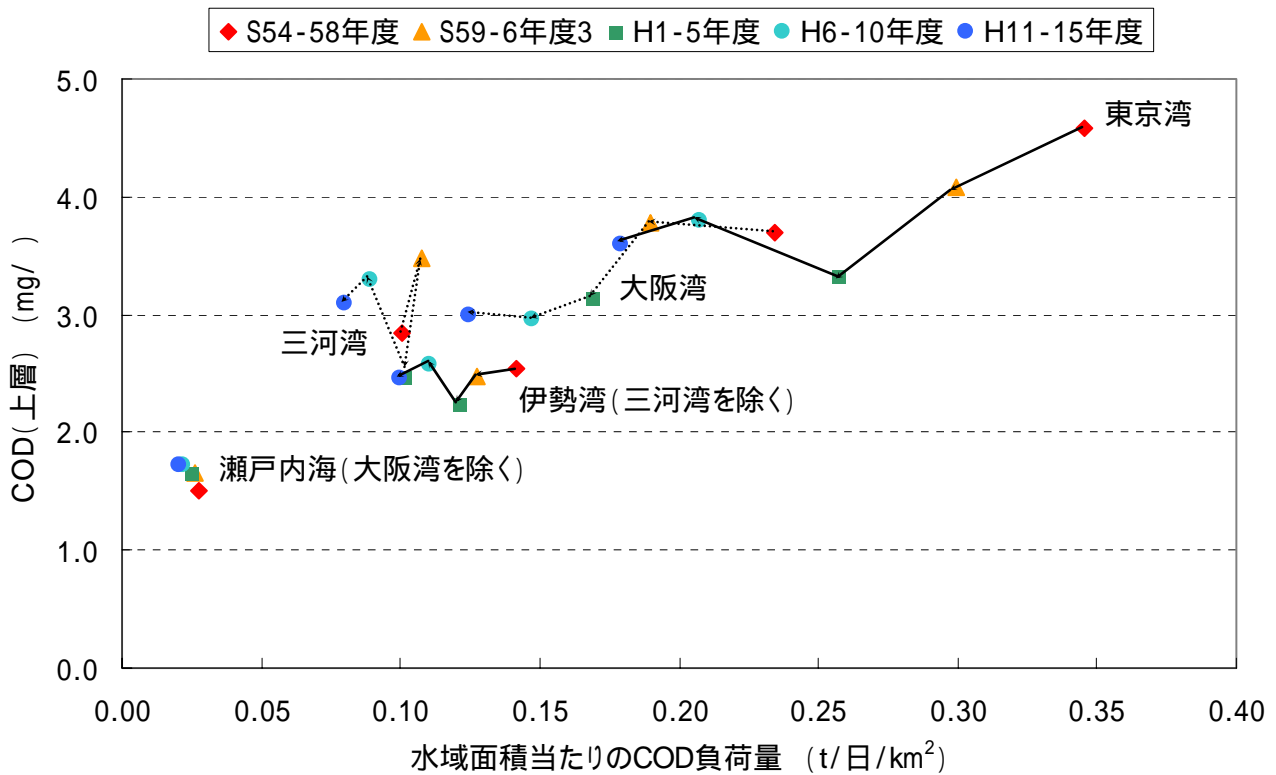
備考) DOは底上 0.5~1m の値。

図 2 5 東京湾における底層 DO (mg/) の分布 (平成 15 年度)



出典)関係都県調べ

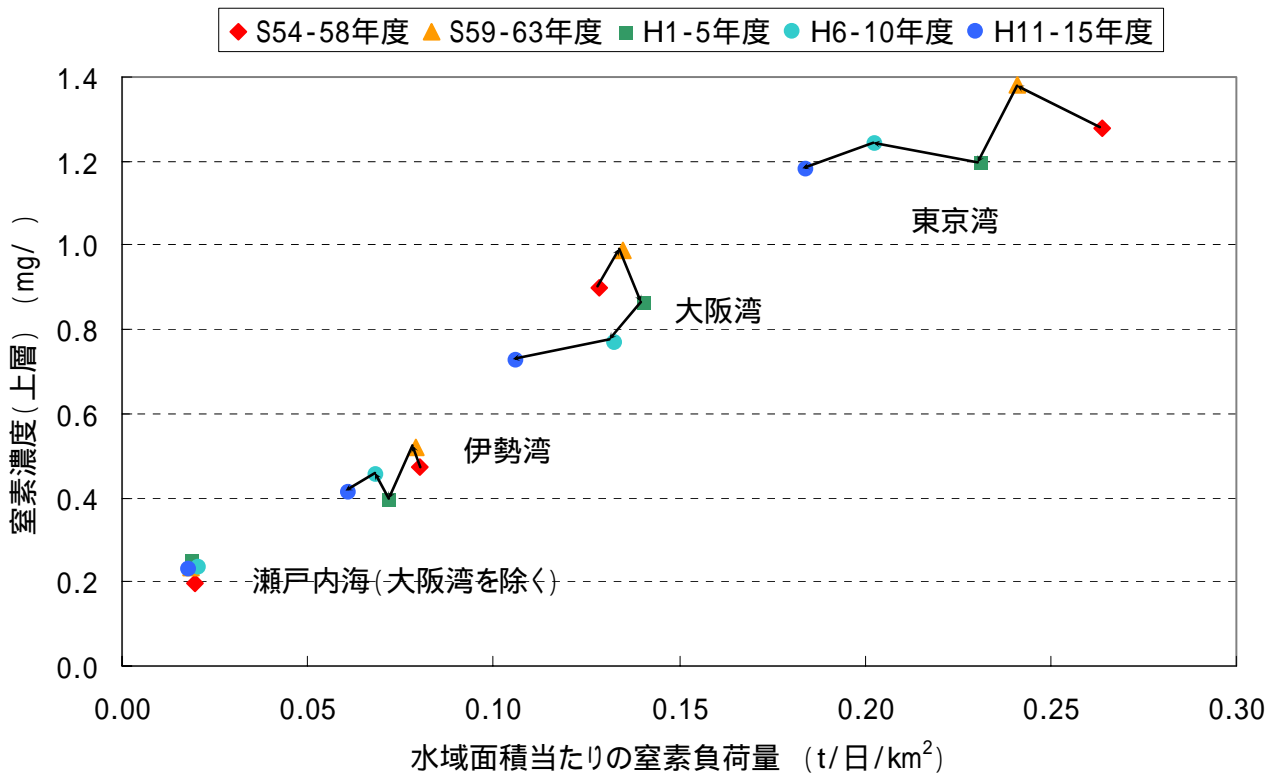
図 2 6 東京湾及び三河湾における青潮（苦潮）の発生状況



出典) 発生負荷量: 発生負荷量管理等調査(環境省)、水質濃度: 広域総合水質調査(環境省)及び公用水域水質測定結果(環境省)。

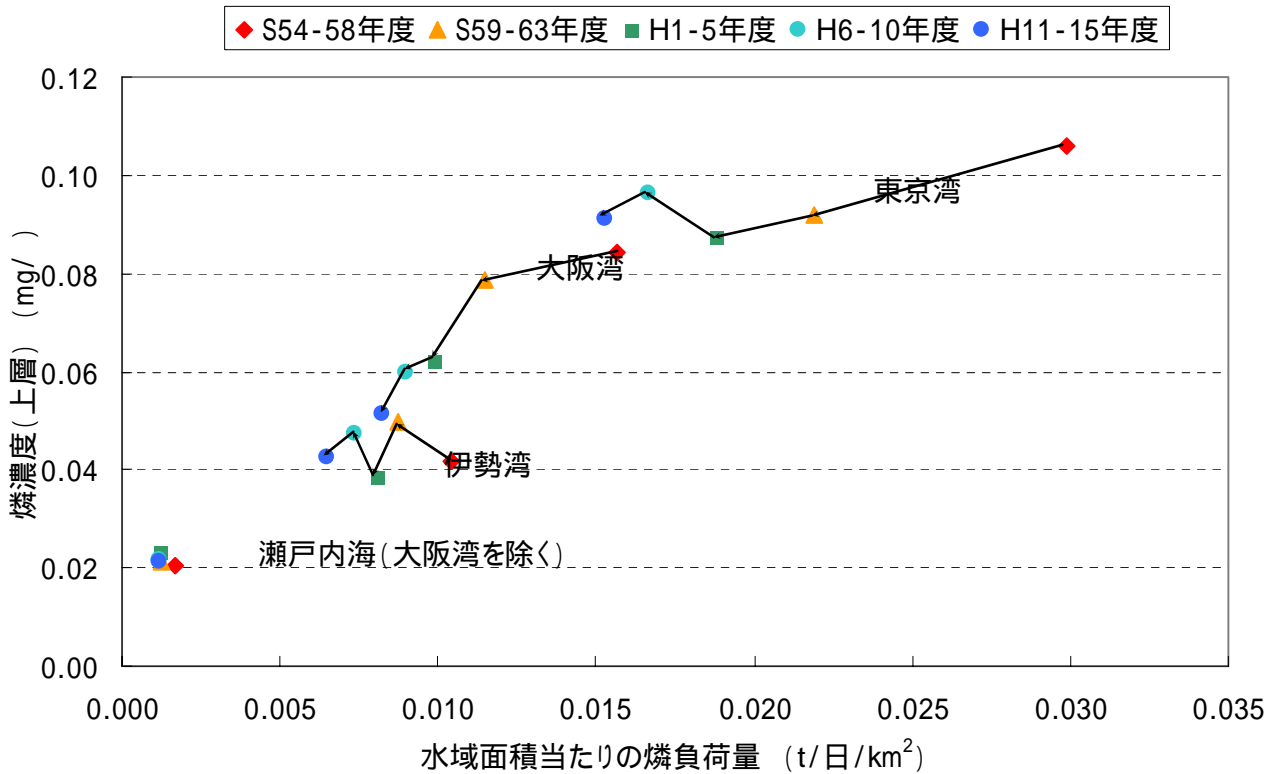
備考) 補正CODとは、各指定水域のCODから、昭和56～58年度の期間平均濃度を基準とする太平洋沿岸における平均CODの変化分を差し引いた値。

図27 水域面積あたりの発生負荷量とCOD及び補正CODの推移



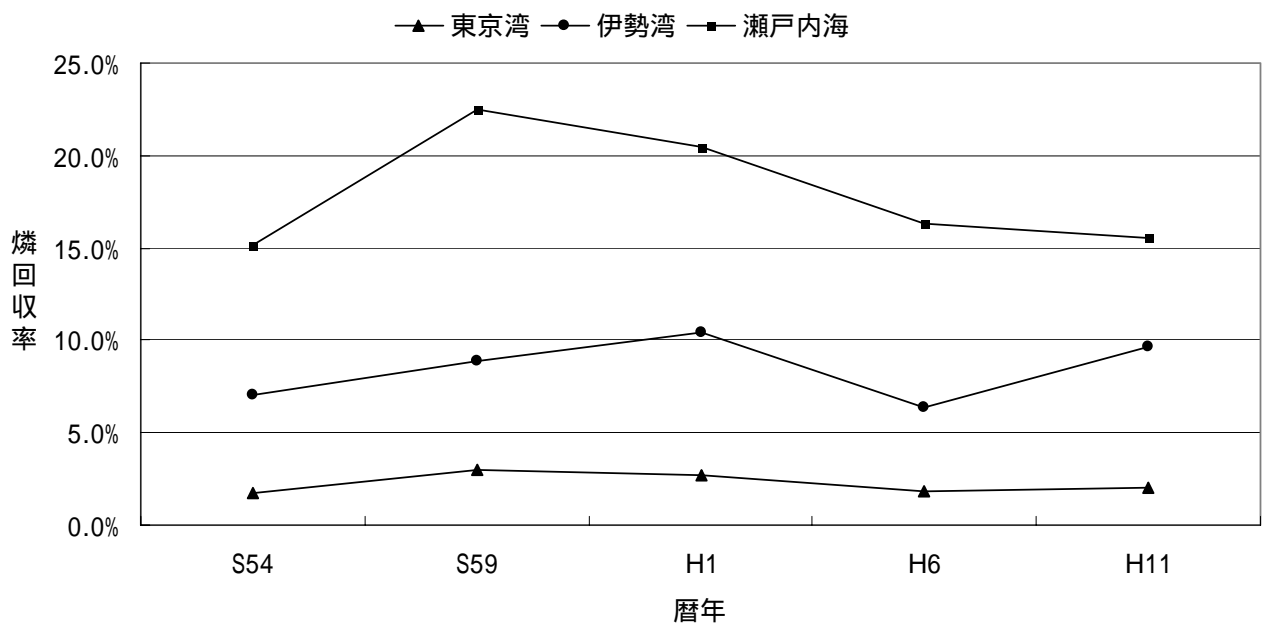
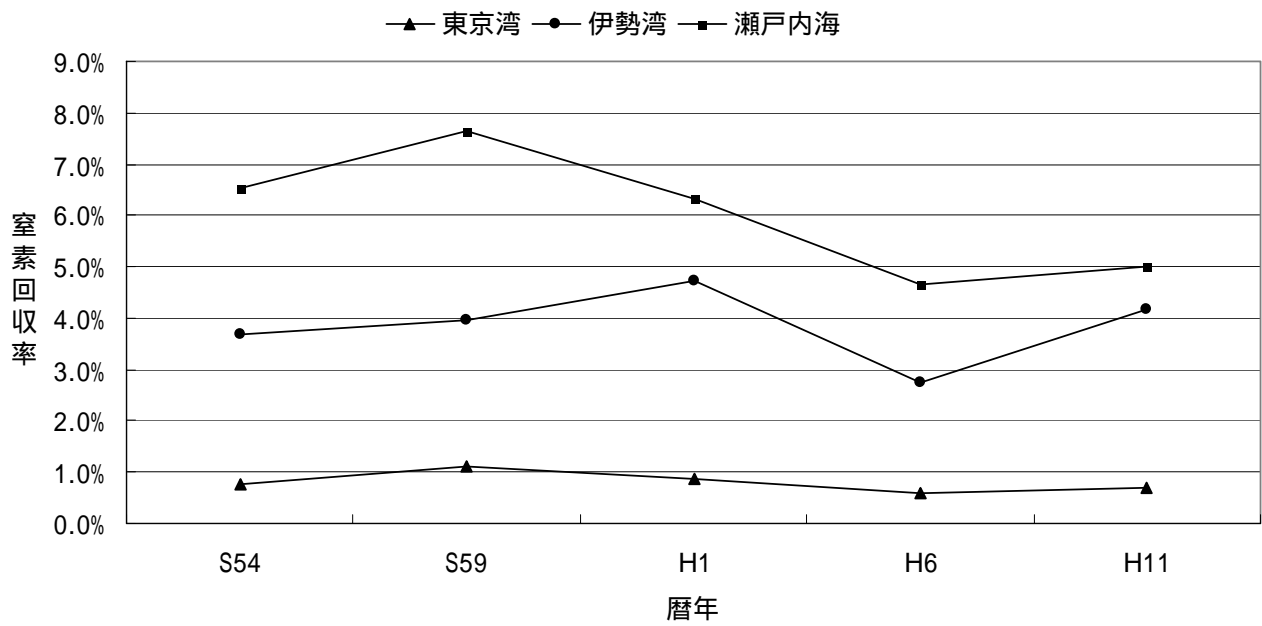
出典) 発生負荷量: 発生負荷量管理等調査(環境省)、水質濃度: 広域総合水質調査(環境省)

図 2 8 水域面積あたりの発生負荷量と窒素濃度の推移



出典) 発生負荷量: 発生負荷量管理等調査(環境省)、水質濃度: 広域総合水質調査(環境省)

図 2 9 水域面積あたりの発生負荷量と磷濃度の推移



出典) 漁獲量・収穫量: 地方農政局統計・情報センター等の漁業統計データ

含有率: 各種文献データ

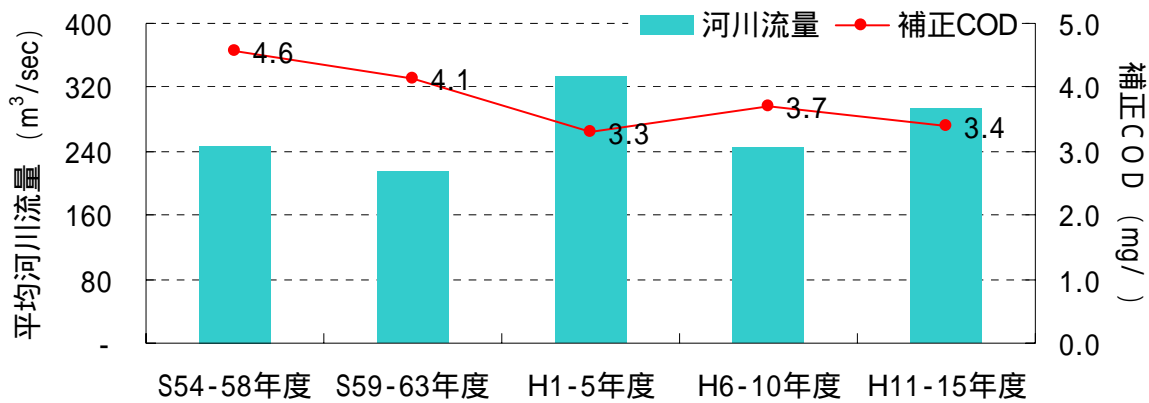
備考) 回収率 = 回収量 / 発生負荷量

回収量 = 漁獲量(収穫量) × 魚体等に含まれる窒素及び燐の含有率

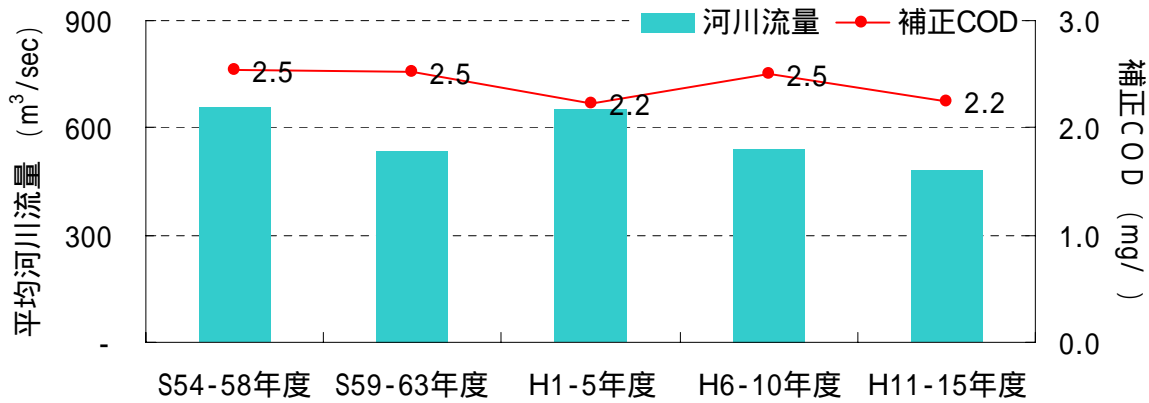
東京湾及び伊勢湾については、海面漁業の漁獲量のみ考慮。

瀬戸内海については、漁獲量に加え「のり養殖」及び「かき養殖(殻付き)」の収穫量も考慮。

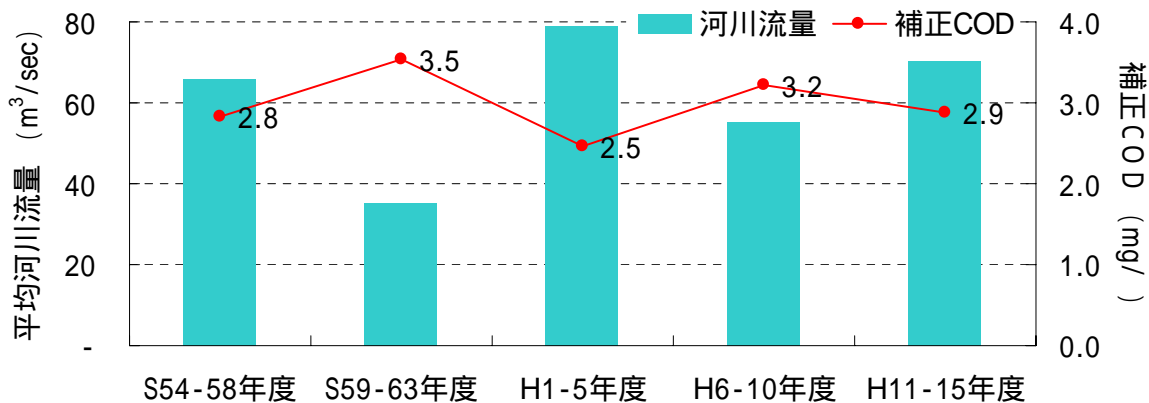
図 3 0 漁獲による海域からの窒素及び燐の回収率



(1) 東京湾



(2) 伊勢湾(三河湾を除く)

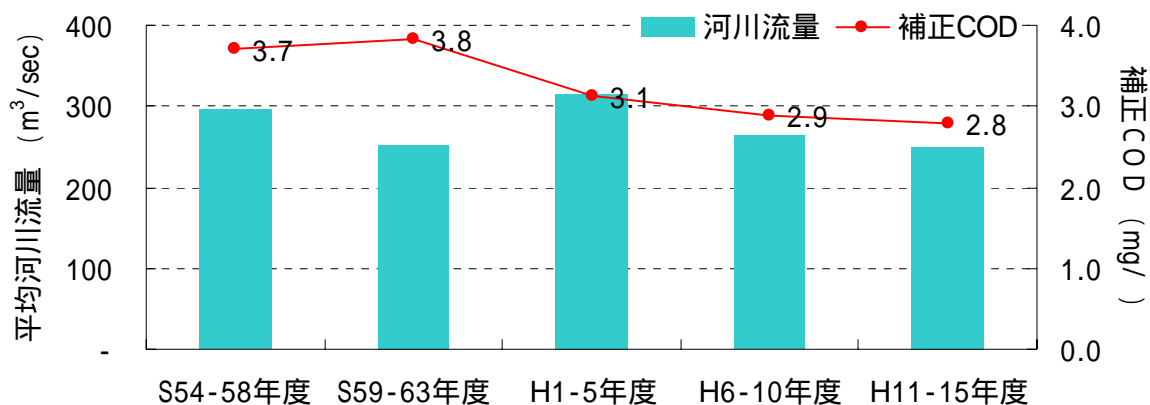


(3) 三河湾

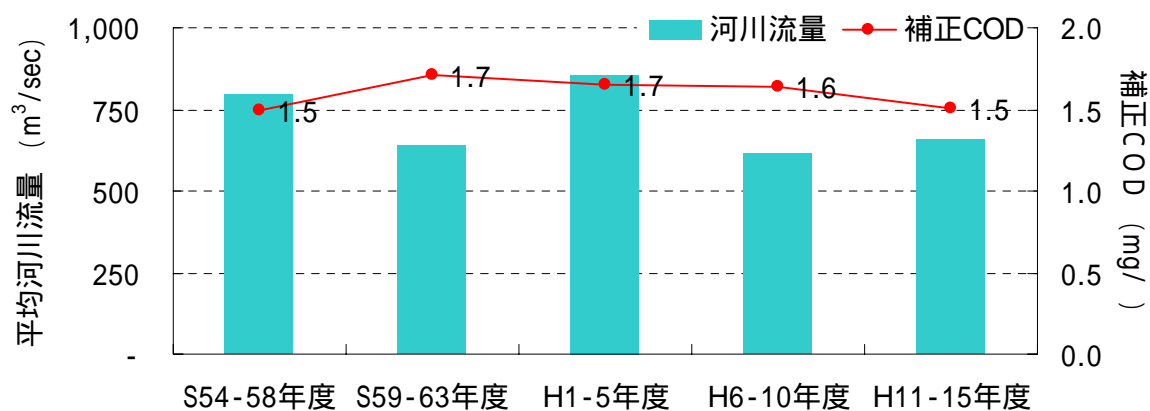
出典) 河川流量: 流量年表

備考) 補正CODとは、各指定水域のCODから、昭和56～58年度の期間平均濃度を基準とする太平洋沿岸における平均CODの変化分を差し引いた値。

図3-1 海域別の補正CODと河川流量の推移



(4) 大阪湾



(5) 瀬戸内海(大阪湾を除く)

出典) 河川流量: 流量年表

備考) 補正CODとは、各指定水域のCODから、昭和56～58年度の期間平均濃度を基準とする太平洋沿岸における平均CODの変化分を差し引いた値。

図3-1 海域別の補正CODと河川流量の推移(つづき)

表4 各海域における年間河川流量と海域容量の比

	東京湾	伊勢湾 (三河湾を除く)	三河湾	大阪湾	瀬戸内海 (大阪湾を除く)
海域容量 (億 m³)	621	339	55	440	8,375
年間河川流量 (億 m³)	86	180	20	87	221
<u>海域容量</u> 年間河川流量	7.3倍	1.9倍	2.8倍	5.1倍	37.9倍

備考) 年間河川流量は、平成13年までの過去20年間平均。